令和4年度 山口県立宇部中央高等学校全日制課程 学校評価書　　校長　山 本 泰 之

1 学校教育目標

教育目標・・・・・・・・・・	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標・・・・・・・	単位制の特色を生かして、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、学力の向上や進路の実現を図る。保護者や地域との連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざす。

2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

（1）本校は、単位制の利点を生かしながら、生徒が明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み、将来の厳しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力の育成を目標にしている。また、地域を支え、地域から必要とされる人材を育成する学校をめざしている。今後、教職員が一丸となって持続発展的な学校を構築していくために、学校教育目標や育てたい生徒像を再確認し、業務の精選を行いながら魅力ある学校づくりを推進する必要がある。
（2）校内の指導体制は、分掌・年次の連携のもとで、基本的生活習慣の確立及び学習習慣の定着を目指し、あいさつ運動や身だしなみ指導、主体的で対話的な授業展開や週末課題での指導等が全校体制で組織的に行われており、教育活動全般を通じて、生徒が他者と協力し、幅広い視野をもって自ら考え、主体的に行動する機会を積極的に設けることで変化の激しい社会を生き抜くための資質能力の育成に取り組む必要がある。
（3）新学習指導要領に基づいた評価の在り方について、昨年度本校の形を作り上げることができた。今年度は、各教科等の「指導と評価の一体化」を促進する中で、ICT等を活用しながら、生徒の主体的な学びを今まで以上に進めていく。また、そのために校内研修や公開授業週間等の機会を利用して教員間の情報共有や研究授業等を更に充実させていく必要がある。
（4）進路指導については、キャリア教育年間指導計画に基づき適切に行われ、生徒の幅広い進路実現にもつながっている。今年度も引き続き進学クラスを設置し、進学指導を推進する。卒業生講話や上級学校による探究活動研究や面談等のきめ細かな指導によって、一定の評価と成果を得ている。生徒や保護者に的確な進路情報をさらに提供するために、外部関係機関と積極的に連携し取り組む必要がある。
（5）学校安全及び生徒指導等については、保護者・地域・関係機関との連携・協力を得ながら安心・安全な学校づくりを引き続き推進する必要がある。特に、新型コロナウイルス感染症への対応に加え、いじめや不登校等への組織的な対応の強化や、情報モラル教育の充実に向けて一層取り組む必要がある。
（6）社会に開かれた教育課程ということを意識し、生徒の地域へのボランティア活動への参加や生徒会の学校運営協議会への参画をとおして、生徒の主体的な取組や本校の教育活動をさらに持続発展的なものにしていく。また、学校教育目標の実現に向けた学校、保護者、地域との共通理解と連携の深化を図 ることで、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校教育のさらなる充実に取り組む必要がある。
（7）業務改善については、教育の質を落とさずに業務時間の短縮を図るとともに教職員の健康管理を徹底することを目指し、年休・代休等を取得しやすい職場環境を整備するとともに、時間外在校等時間のさらなる削減に向けて、教職員の意識改革を図り、業務改善を進める必要がある。さらに、今年度導入する統合型校務支援システムを円滑かつ効果的に運用することにより、業務の効率化を推進していく必要がある。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

1 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実
2 1人1台端末等を活用した主体的な学びの推進
3 業務改善による教職員の資質向上と健康増進
チャレンジ目標・・・～ FLY TO THE FUTURE ～【未来へ羽ばたけ】
・自己管理　・時間厳守　・結びつきを大切に
1年次目標　「自分を知ろう」「他者への思いやりを大切に」「清掃活動の真剣な取り組み」
2年次目標　「初心を忘れず思いやりをもって行動しよう」
3年次目標　「凡事徹底　進路実現のために」

4 自己評価　A：取組が優れている　B：取組がよい　C：取組がおおむねよい　D：取組に改善が必要

5 学校関係者評価

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	○基礎学力の確実な定着を目指した教員の指導力の向上及び生徒の主体的な学びの推進	ICT等を活用しながら、生徒にとって「わかる授業」を実践し、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	学校生活アンケート「授業は必要に応じてプロジェクタ等のICTを活用するなど、教え方が工夫された『わかる授業』が行われ、学習に主体的に取り組めていると思う」に対する回答の割合 4：肯定的な回答　80％以上 3：肯定的な回答　60％以上 2：肯定的な回答　40％以上 1：肯定的な回答　40％未満	4	一人一台端末を利用した授業をそれぞれの教員が創意工夫しながら実施し、ICTを活用した授業への取組は定着している。アンケートでの生徒の肯定的な回答は95％であった。 11月上旬の公開授業週間と併せて実施されるICTチャレンジ週間では、「授業参観カード」を使い積極的な授業参観を呼び掛けた。授業参観を通して、様々な取り組みに触れ、『わかる授業』の実践につながる指導力向上につながった。	○教員間でもICT活用度に差があると思うが、生徒アンケートで肯定的な回答率が高いことは大変評価できる。 ○時代に応じてICTを効果的に活用した授業に試行錯誤しながら取り組む姿勢や「わかる授業」を行うために尽力する姿勢に感謝する。 ○教務課のマニュアル作成については、円滑な引継ぎ等を見据えているため、今後に期待したい。 ○校務支援システムの評価基準が目標達成の指標として適切かどうか、一考の余地があると思われる。	B
	○学務システムの共有と課全体の仕事力向上	単位制独自の授業の駒組の仕方や校務支援システムの運用等、教務課の業務全体に関わる校内マニュアルを作成する。	4：校務支援システムと駒組に関わるマニュアルが80％以上作成できた。 3：校務支援システムと駒組に関わるマニュアルが60％以上作成できた。 2：校務支援システムと駒組に関わるマニュアルが40％以上作成できた。 1：校務支援システムと駒組に関わるマニュアルが40％未満しか作成できなかった。	2	今年度5月に県下統一型の「校務支援システム」が導入された。大まかな運用方法については県共通のマニュアルがあるが、本校独自に運用する部分も多くあり、本校独自のマニュアル作成を年間必要な作業については全て行った。 しかし、支援システム以外の教務課の業務に関わるマニュアル作成はほとんど進んでいないのが現状である。メモ程度でもよいので注意事項等を残しておき、誰が担当になっても業務を遂行できる体制を整える必要がある。		
情報化推進室	○学校の取組や生徒の活動の様子など、本校の魅力や情報の保護者・地域への積極的な発信	ホームページの掲載内容の充実や積極的な更新等に取り組む。	4：学校の取組や生徒の活動の様子など、毎月3回以上ホームページの更新ができた。 3：学校の取組や生徒の活動の様子など、毎月2回ホームページの更新ができた。 2：学校の取組や生徒の活動の様子など、毎月1回ホームページの更新ができた。 1：学校の取組や生徒の活動の様子など、ホームページの更新ができなかった。	4	今年度4月から、本校のホームページをリニューアルした。学校の取組や生徒の活動の様子など更新は41回、平均して毎月4回以上行い、本校の特色ある教育活動や情報を保護者・地域へ積極的に発信することができた。来年度は、バーチャル学校見学という新たな要素をホームページに追加する予定である。掲載内容をさらに充実し,本校の魅力を積極的に発信していきたい。	○様々な学校の取組や情報を学校内に留めるのではなく、地域にも積極的に発信する姿勢が大変評価できる。 ○ホームページがとても見やすい。新しくなったホームページは明るく、写真も多く、これを見た中学生や保護者にとても良いイメージを与えることができると感じる。更新が盛んな学校ホームページは、好印象につながるので引き続き努力してもらいたい。 ○ICTを効果的に教育活動で活用していることは大変評価できる。今後は生徒たち自身にもいっそうのICT活用を促進し、ICT活用能力の向上にも努めてもらいたい。	A
	○生徒と教員のICT活用能力の向上	ICT推進担当で意見交換会を行い、その成果を研修やグループウェア等で発信する。授業公開週間（ICTチャレンジ週間）、研修をとおしてそれぞれの取組を共有する。	4：ICT推進担当で意見交換会を5回以上設けた。 3：ICT推進担当で意見交換会を4回設けた。 2：ICT推進担当で意見交換会を3回設けた。 1：ICT推進担当で意見交換会を2回設けた。	3	昨年度から本格運用が始まった一人一台タブレット端末については、各教科の教員のICT活用能力が向上してきた。意見交換会は4回行い、情報化推進室のメンバーと各教科ICT担当教員を中心とした職員室での情報交換やICT活用チャレンジ週間での授業見学、研修等を通して、教員のICT活用能力の向上につなげることができた。今後は昨年度からの継続課題でもあるが、生徒のICT活用能力の向上について引き続き取り組んでいきたい。		

生徒指導	○基本的生活習慣の確立及び自己肯定感の育成	・身だしなみ指導をとおして生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、朝の登校指導をとおしてあいさつの励行を図る。 ・部活動等の課外活動に積極的に参加することで自信と誇りをもたせ、自己肯定感の育成を図る。	学校生活アンケート「生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が十分に図られたと思う」に対する肯定的な回答の割合 4：肯定的な回答　80％以上 3：肯定的な回答　60％以上 2：肯定的な回答　40％以上 1：肯定的な回答　40％未満	4	アンケートでの肯定的回答は、生徒92％、保護者90％、教職員58％、全体80％であった。基本的生活習慣の確立及び基本的マナーの育成については、毎月一度の身だしなみ指導や毎朝の登校指導でのあいさつ、昼休みの校内巡視、定期的に実施している校外巡視等、全教職員の協力を得て効果的に実施できた。昨年度に比べれば全校集会等への制限が緩和されてはいるが、従前のような全体指導や、全員で校歌を歌う等ができないので、機会があるごとに創意・工夫をして、生徒に自信や誇りを持たせる指導をしていきたい。今後も、生徒の心身の状態をしっかり把握し、教育相談・SC・養護教諭等との連携を図って指導していきたい。	○どちらの項目も生徒の肯定的な回答が9割を超えていることが大変評価できる。 ○「生徒の基本的な生活習慣の確立」について生徒・保護者と、教員の肯定的な回答率に乖離があることが気になる。 ○コロナ禍で定着した新たな価値観を生徒と教員間でどのように共有していくかが鍵だと考える。 ○本校は、生徒と教員の関係が近く、話しやすい、親しみやすい良い雰囲気があると感じてる。	A
	○特別活動への主体的参加の推進	生徒会執行部のリーダーシップを育成し、コミュニティ・スクールの地域貢献の機能を生かした生徒会活動や学校行事への積極的、主体的参加を促す。	学校生活アンケート「生徒会を中心に各行事ともクラス全員の積極的な参加が見られ、活動が活発に行われていると思う」に対する回答の割合 4：肯定的な回答　80％以上 3：肯定的な回答　60％以上 2：肯定的な回答　40％以上 1：肯定的な回答　40％未満	4	アンケートでの肯定的回答は、生徒95％、教職員88％であった。生徒会執行部を中心に各種委員会活動の活性化を図ってきた。各学期2回、常設委員会を開催し、学期目標を掲げ、全校生徒への呼びかけも行ってきた。今後も生徒の当事者意識・主体性を高めていくために、各種委員会活動を生徒全員に周知徹底を図っていきたい。 学校行事への積極的参加については、コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮しつつ、「明日葉祭」を3年次生の保護者のみに限定して公開することができ、準備・運営においても生徒の自主的な活動の場面が多く見られ、目標は達成されたと考えている。体育大会では特に「生徒主体」の運営を目指し、生徒会を中心に生徒達が主体的に熱く取り組み、大きな成果を上げることができた。また、近隣の中学校と生徒会を中核に連携し、ユニクロ「服のチカラプロジェクト」で成果ををあげることができた。		
進路指導	○進路実現のための学力養成	希望進路実現に必要な学力養成のため、課外授業実施・学習会実施・自習室解放や、外部関係機関との連携（模試・講演会など）により、希望進路を実現するために必要な学力が身についていると思う」に対する回答の割合 4：肯定的な回答　90％以上 3：肯定的な回答　70％以上 2：肯定的な回答　50％以上 1：肯定的な回答　50％未満	学校生活アンケート「課外授業実施・学習会実施・自習室解放や、外部関係機関との連携（模試・講演会など）により、希望進路を実現するために必要な学力が身についていると思う」に対する回答の割合 4：肯定的な回答　90％以上 3：肯定的な回答　70％以上 2：肯定的な回答　50％以上 1：肯定的な回答　50％未満	3	アンケートの肯定的回答が、生徒90％、保護者71％であった。課外授業は、学期中（1～3年次）、夏季休業中（1～3年次）、冬季休業中（3年次）、春季休業中（1・2年次）に実施した。学習会は、毎週土曜日の他、夏季休業中（1～3年次）、冬季休業中（1・2年次）に行った。3年次の自習室・学習会参加者は2学期から増加したが、1・2年次の学習会希望者が少なかった。学習会、自習室の利用を促進し学力に結び付けたい。 外部機関の利用は、ベネッセとの連携で、今年度から新規に1・2年次進学講演会（生徒向け）を行うとともに、進路指導検討委員会（教員向け）を立ち上げ、進路指導方針を共有している。また、第一学習社（小論文、生徒向け）、公務員課外（YIC公務員専門学校、4回）、東進ハイスクール（無料模試、2年次に講演）、就職サポーターによる面接指導（年6回）を行うことで、より、質の高い指導につなげている。	○進路指導については、学内の教員だけではなく、学外者との連携が重要であると考える。そのような中、卒業生や大学教員、外部教育機関を有効に活用し、キャリア教育や「総合的な探究の時間」の探究活動、出張講義等の充実に取り組んでいることは高く評価できる。 ○学校生活アンケート「課外授業実施・学習会実施・自習室解放や、外部関係機関との連携（模試・講演会など）により、希望進路を実現するために必要な学力が身についていると思う」に対する生徒・保護者と、教員の間の肯定的な回答率に乖離がないのか検証するために、教員の回答も得る必要がある。 ○多様な希望進路の実現に必要な学力を養成するうえで、1・2年次の生徒の進路意識や学習意欲の向上が大切である。1・2年次生徒の学習会への参加者を増やすことも喫緊の課題である。 ○生徒が高校卒業後に何がしたいのか、どうしたいのか、どの道に進むか、それを見つけるのも高校の大切な役目だと考える。そのために大学教員による出張講義など、様々な取組に、日々奮闘されている先生方に感謝する。	B
	○進路意識向上のためのキャリア教育の計画的推進	面談（科目選択指導、進路指導等）・「総合的な探究の時間」・「上級学校見学」・「卒業生講話」等を計画的に実施し、進路に対する意識を高める。	学校生活アンケート「面談（科目選択指導、進路指導等）・総合的な探究の時間・上級学校見学・卒業生講話等をとおして、進路に対する意識が高まった」に対する回答の割合 4：肯定的な回答　80％以上 3：肯定的な回答　60％以上 2：肯定的な回答　40％以上 1：肯定的な回答　40％未満	4	アンケートの肯定的回答が、生徒95％、保護者83％であった。1年次生徒は5月に上級学校見学を行った。今年度新たに実施した全年次生徒対象の「本校卒業大学生との座談会」（27名参加）では、事後アンケートの項目「進路意識が高まった」に参加者全員が「とてもそう思う」と回答した。これらの取り組みを通し、3年生の自習室の利用も増えた。年度末の卒業生講話なども通して生徒の意欲の向上へつなげたい。 「総合的な探究の時間」においては、10月に探究活動研究（出張講義）を行い、大学の先生によるSDGsに関する講義を行い、1月末の学習成果発表につなげることができた。これらの良い流れを今後とも続けていきたい。		

総務	○図書館利用の活性化	総合的な探究の時間やロングホームルーム、教科の授業での図書館利用の推進を図り、新聞やキャリア形成の一助となるような本をさらに増やしていき、生徒に図書館の活用を「図書だより」などでアピールしていく。	4：図書館を利用した生徒数が、年間のべ2000人を超えた。 3：図書館を利用した生徒数が、年間のべ1500人を超えた。 2：図書館を利用した生徒数が、年間のべ1000人を超えた。 1：図書館を利用した生徒数が、年間のべ1000人を下回った。	2	今年度の利用生徒数は、延べ1063名であった。（R3 1128名）。授業での新聞活用や進路に関係した本の貸出など、3年生の利用が顕著であった。また、自習室としての利用も定着している。11月の全校一斉読書指導では、どの年次においても多くの利用者があった。LHRでのビブリオバトルも活発に行われ、読書啓発のよい機会となった。 このような活動を来年度以降も継続し、読書活動を推進したい。また、進路に関する本や社会問題に関する本をより充実させ、キャリア形成や進路実現に役立つよう整備したい。 図書館からの情報発信や読書イベントの開催など、本を身近に感じられる機会を増やし、読書活動をより活性化していくことが今後の課題である。	○図書館利用活性化の目的は、生徒の読書習慣や自学・自己研鑽の機運の醸成のためだと考えられ、その目的からすると、ビブリオバトルは良い取組である。ビブリオバトルの上位入賞者を表彰するなど、取り組みの価値づけを高めてはどうか。ディベート大会や小論文の課題なども有効かと考える。 ○若い時に読んだ本は栄養になる。教職員自身が感銘を受けた本も積極的に紹介するとよい。 ○中学校でも読書好きの生徒は少数である。他の楽しみが多く、読書習慣が身に付かないのが現状である。 ○小説などの活字を読むことが将来の語彙力に繋がることを知る機会があればよい。ゲーム的要素を加えて、読書を促せないか。 ○保護者にとって最も不安なことは学校の様子が「わからない」ことである。PTA活動、授業参観や行事等に参加できない保護者が、当事者意識をもって「参加しやすい」形はどのようなものがあるのか、引き続き検討してもらいたい。	B
	○保護者との連携の強化	PTA活動や学校行事に関する情報を、案内文書やメール配信、インターネット等を通じて保護者に伝え、PTA行事や学校行事への参加や協力を呼びかける。	4：PTA活動や学校行事について、文書やインターネットを通じて、毎回双方向でのやり取りを行った。 3：PTA活動や学校行事について、文書やインターネットを通じて、数回双方向でのやり取りを行った。 2：PTA活動や学校行事について、文書やインターネットを通じて、毎回情報発信を行った。 1：PTA活動や学校行事について、文書やインターネットを通じて、数回情報発信を行った。	3	今年度は、コロナ禍の感染防止対策に留意したうえで例年に近い形で実施した行事が増えた。 5月のPTA総会は通常の形式で開催された。6月の明日葉祭PTAバザーでは2回の企画会議を通して感染防止対策を念頭に置いた販売方法、店舗設計について活発な意見交換があり、当日は20名の協力体制のもとで無事成功させることが出来た。10月下旬のJR東新川駅舎ボランティア清掃活動では11名の方が参加された。教員と生徒は合わせて7名の参加で学校内のアナウンスをもっと充実させる必要性を感じた。12月発行のPTAだよりについては、7月の企画会議で紙面構成や役割分担の打ち合わせを行い、記事作成や写真撮影において多くの方が協力して紙面構成をすすめることができた。10月下旬の探究活動研究発表会、11月上旬の朝のあいさつ運動、11月下旬の学校安全保健委員会には各専門部会から数名が参加された。今年度は活動のいくつかを本校ホームページに掲載し、広報活動の充実化にも務めた。これらの実践活動をもとに更に充実化を図っていきたい。		
保健環境	○心身の健康の保持増進	担任・校内コーディネーター・養護教諭・スクールカウンセラー等が連携し、心身のケアが必要な生徒の早期発見・早期対応に努めるとともに、全教員が情報を共有できる体制を充実させる。生涯にわたって感染症防止ができる行動力が身につくよう具体的でわかりやすい情報発信を行っていく。	4：心身のケアが必要な生徒への連携した機敏な対応とともに、自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が充実していた。 3：心身のケアが必要な生徒への対応と自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が行われた。 2：心身のケアが必要な生徒への対応と相談活動や保健指導がやや不十分であった。 1：心身のケアも相談活動や保健指導もほとんど行われなかった。	3	すべての 生徒が安全に安心して学校生活を送るために教職員が組織的に生徒支援を行えるよう情報共有の充実を図った。特に心のケアや配慮が必要な生徒を早期に把握するために学校生活の適応感を調べる「Fitアンケート」を1学期に、「悩み・いじめのアンケート」を2学期に実施した。また、その結果を集計分析し、学校関係者にスクールカウンセラーを交え、ケース会議を行い、生徒のケアについて早期対応を行った。また、新型コロナ感染症対策では、「体温計測の習慣化」、「黙食の徹底」を呼びかけながら生徒の意識向上を促した。熱中症に対しては毎朝WBGTの予想レベルを確認し教職員へ周知を図った。	○生徒が安心して学校生活を送るためには、生徒の様子に「気づく」ことが大切である。教育相談体制については、心のケアや配慮が必要な生徒の早期把握に取り組み、教員だけでなくスクールカウンセラーなど専門家を交えてケース会議を適宜行い対応していることは高く評価できる。 ○校内はとても清潔で、開放感があり、緑も多く明るい雰囲気である。生徒や教員だけでなく、校務技士の方々にもよるものだと知り感謝する。 ○校内環境の維持に生徒がもっと主体的に関われるようにしてはどうか。	B
	○学習環境の整備	・清掃活動の徹底とゴミの減量化を促進させながら生徒の環境意識の向上を図る。 ・花壇づくりなど校内美化に努め学習環境を整備する。	4：清掃活動その他の美化活動が計画どおりに実施され、生徒の環境意識も高まった。 3：清掃活動その他の美化活動がほぼ計画どおりに実施され、生徒の環境意識もやや高まった。 2：清掃活動等が不十分で生徒の意識を高めるまでに至らなかった。 1：計画のみにとどまった。	3	本校の環境美化は校務技師の尽力によるところが大きい。生徒の清掃活動には、指示されたことはできるが、自発的に率先できる生徒はまだ少ない。本年度から生徒が時間いっぱい清掃活動ができるよう掃除終了時にチャイムを鳴らすようにした。また、SDGsの精神に則りゴミの減量化、分別など環境意識の向上を図りたい。その上で教職員を含め、清掃活動への意識を高めていきたい。花壇については、担当教員の指導の下、環境委員や掃除当番の生徒が良く活動し、1学期に土作り、苗の植え付け、水やり、除草などを行った。		
地域連携	○コミュニティスクールを活用した地域活動への主体的参加の推進	・ボランティア委員のHRでの呼びかけや掲示物などを通じて、全校生徒に積極的に活動を紹介し主体的な参加を促す。 ・活動の状況を情報発信する。	4：8回以上計画し、活動状況を情報発信をした。 3：4回以上計画し、活動状況を情報発信した。 2：活動への生徒の参加がなかった。 1：地域活動をおこなわなかった。	4	現在までに16件の地域連携ボランティアの依頼等をいただき多くの生徒が参加した。子どもたちをはじめ、多くの地域の方々と一緒に活動を行った。 天候やコロナの影響を受け、準備をしたができなかった活動もあり、生徒に残念な思いをさせたが、それらは次年度以降に生かしていきたい。 ユニクロの「服のチカラプロジェクト」に今年度から神原中学校に協力をお願いし、中高で連携した活動を行った。初めての試みで反省点も多いが、新しい活動の仕方として今後も継続できたらよいと考えている。 多くの生徒が活動に参加し、地域の方々からも高い評価を頂くことができた。また、生徒の活動の様子が報道や地域のHPで紹介され、多くの方に知っていただくことができた。	○企業や中学校と連携した取組や地域の随所でボランティア活動に本校の名前があるのを見かけるなど、地域連携、地域貢献の取組を多く行っていることを高く評価する。卒業生として母校を誇らしく思う。地域に頼られる学校づくりに感謝する。 ○学校運営協議会を欠席した委員にも地域と連携した活動の様子が伝わるように工夫してほしい。 ○今までのやり方に満足せず、新しい取組にチャレンジしている学校の姿勢は、生徒に確実に伝わっていると感じる。	A

業務改善	業務の効率化 ○教育の質を落とさずに業務時間の短縮を図る	業務改善を促進するため、課題を抽出し、計画的に改善に向けた取組を全校体制で行うとともに、教職員のチーム力とタイムマネジメント力を上げる。	年間を通じ1カ月の時間外業務時間が 45時間を超える教職員の割合 4：10%未満であった。 3：10%以上30%未満であった。 2：30%以上50%未満であった。 1：50%以上であった。 ※通常予見することができない業務量の大幅な増加は別途対応する	2	月平均の時間外在校等時間が45時間を超えた教職員の割合は34%（R3 41%）であった。9月・1月に時間外業務時間の上限時間確認表を個票で配付し、面談で確認するなど、意識改革に取り組んだ。 5月に業務改善委員会を新設し、全教職員の意見を反映し勤務体制の改善、業務の見直し、効率化を全体の合意を得ながら組織的に進めた。このことにより、教職員が主体となりメリハリのある働き方や業務削減、ICT・クラウドを活用した業務の効率化などがすすみ、更なる時間短縮と教職員の余裕時間の確保につながった。 学校生活アンケートで「組織的な対応が進み、働き方改革に伴う時間外業務時間が減少している」と答えた教員の割合は62%（R3 57%）であった。「自身のタイムマネジメント意識の向上」の肯定的回答が85%であった。教育の質を高めながら、引続き業務の精選、タイムマネジメントの徹底を図っていきたい。 ○時間外在校等時間（取組後7月～12月集計） 月45時間超延べ人数　R3 69人 ／ R4 51人 ⇒　26%減少 月別平均　R3 40.8時間 ／ R4 35.8時間 ⇒　12%減少(5時間減少)	○生徒が安心して学校生活を送るためには、生徒の様子に気づく「教職員」の安定が重要である。 ○今年度の取組を通して、時間外在校等時間の削減と教職員の意識改革もさらに進んだ様子である。時間外勤務を生んでいる原因を、引続き徹底究明し改善につなげてもらいたい。 ○学校の役割が年々増加し、そのことによる教員の大きな業務負担が問題となっている。生徒・保護者への対応や関わりにはゴールがなく、時間に追われる日々の中での様々な試行錯誤に感謝する。	B
	健康管理 ○教職員の健康管理を徹底する	健康診断結果に基づいた健康管理を行い、面談等の機会を使いながら意識改革を行い受診率の向上を図る。	4：再検査者の受診率が100%であった。 3：再検査者の受診率が80%以上であった。 2：再検査者の受診率が60%以上であった。 1：再検査者の受診率が60%未満であった。	3	再検査者の受診率は94.7%であった。例年指摘されているが生活習慣に起因する脂質異常の割合が今年度も高かった。自覚症状を伴わないことから放置されがちであるが、食生活の見直しや運動により改善が可能であるため、日頃の生活習慣の見直しを職員に促した。		

A：取組が優れている　B：取組がよい　C：取組がおおむねよい　D：取組に改善が必要

6　学校評価総括（取組の成果と課題）

【成果	○必要に応じてICT機器を活用し、生徒が「わかる授業」を実践することができた。（教務） ○平均して毎月3回ホームページの更新ができた。また、教員のICT活用能力が向上した。（情報化推進室） ○各年次各教室での毎月1度の身だしなみ指導、毎朝の登校指導・通学マナー指導等を全教員の協力により効果的に実施できた。（生徒指導） ○全生徒対象で行った「本校卒業大学生との座談会」や、1・2年次対象に行った進路講演会は、生徒の意識の向上に役立った。これらの取り組みを進路実現につなげたい。（進路指導） ○各行事において目標を共有し、共通理解のもとで行事を成功させることができた。（総務） ○読書だけでなく学習の場として図書館の環境を整備し提供することで、図書館に親しみ、本を身近に感じる生徒が増えた。（図書） ○感染症に対する理解が深まり、感染症対策ができる行動がほぼ身に付いてきた。また、サーマルカメラや網戸の設置など、感染防止に必要な備品が整備された。（保健環境課） ○生徒の活動が地域から評価され、ボランティアを依頼されることも多くなった。参加する生徒も、地域の方々や子どもたちと一緒に活動することで自分自身の役割（できること）を考えたり、年齢層に応じたコミュニケーションをしたりするなどを通して、自己肯定感や自己有用感を高めるとともに多くのことを地域から学ぶことができた。（地域連携） ○ICTやクラウドを活用した欠席連絡受付、職員朝礼伝達事項（教員・生徒）のデジタル化など、業務を効率化し更なる時間短縮と教職員の余裕時間の確保に取り組んだ。（業務改善） ○本校の働き方改革を促進するために、業務改善委員会を新設し、全教職員が一体となって組織的に勤務体制の改善、業務見直し、効率化に取り組んだことにより、メリハリのある働き方やICTを活用した業務の効率化が促進できた。そのことにより、教職員全体の時間外業務時間の減少やタイムマネジメント意識の向上に確実につながった。（業務改善） ○再検査未受診者へ機会あるごとに個別に働きかけ、受診率が向上した。（業務改善）
【課題	○校務支援システム運用に関わる見直しと改善が必要である。（教務） ○行事主担当に学校ホームページ用の記事作成を前もって依頼すること及び生徒のICT活用能力を向上させること。（情報化推進室） ○多くの制約がある中で、生徒会を中心に少しでも多くのイベントを充実させること。また、生徒の身だしなみについて、基準に準じて、指導を徹底させること。（生徒指導） ○進路実現に向けた生徒の学習習慣や学力を向上させること。（進路指導） ○長引く新型コロナウイルス感染症対策における行動制限や生活の変化により、生活リズムの乱れ、運動不足、情緒面への影響が懸念されている。それらを踏まえた保健安全教育を充実させること（保健環境課） ○学校全体での読書習慣の確立とPTA行事への参加者数を増やすための工夫に取り組むこと。（総務） ○本校の生徒の力を発揮できる場面を考え、依頼されるボランティアと参加する生徒との依頼団体との橋渡しを行い、生徒が活躍できる場面を増やしていくこと。（地域連携） ○職員の健康を守り、業務改善をさらに促進しながら、本校の魅力や教育の質を維持発展させていくこと。（業務改善） ○業務過重となる職員がさらに減少するよう、適材適所の配置と業務の平準化。（業務改善）

7　次年度への改善策

○誰でも円滑に仕事が進められるよう業務の整理や引継ぎに努める。（教務）
○行事担当とも連携して本校の魅力や情報を、保護者・地域へ積極的に発信する。また、各年次・教科のICT推進担当で意見交換会を計画的に実施し学習活動や学びの充実に取り組む。（情報化推進室）
○様々な制約を考慮しながら、生徒会の生徒を中心に、生徒自らが考え、自主的に学校生活を充実したものにできるように促す。また、生徒自らが考えて、身だしなみに気を付けることができるように取り組む。（生徒指導）
○学力向上に向けて、授業、課外や自習室の充実に取り組む。また、進路指導検討委員会（年3回）等をとおして、教員も共通理解を持って進路指導にあたる。（進路指導）
○図書館からの情報発信のあり方とPTA活動に関心を持ってもらえるような広報活動を検討する。（総務）
○引き続き感染防止対策を行う。また、感染症対策における最新情報を適時的確に発信し、状況に応じた行動ができるようにする。（保健環境課）
○生徒に主体的に活動させる場面をさらに増やし依頼団体とも協力をしながら、持続可能な地域連携の体制を構築していく。（地域連携）
○教職員一丸となって持続可能な学校を構築していくために、本校のスクール・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシーの策定を進めつつ、全体の学校行事などカリキュラムを精選するとともに指導体制の充実に取り組む。（全体）
○ICTを有効に活用するなどを通して、生徒の主体的な学びを確保し、教育の質の向上を図るとともに業務改善に取り組むことで、活気と魅力ある学校づくりを推進する。（全体）
○変化の激しい社会を生き抜く子どもたちに、「自ら考え主体的に他者と協働して学ぶ」ことの大切さを、すべての教育活動を通じて実践する。（全体）
○学校関係者からの意見・要望等を踏まえ、評価項目や評価規準の見直しを含め、より開かれた学校づくりを推進していく。（全体）